

# 復興CM方式の評価の考え方(案)

---

平成28年11月11日

国土交通省 土地・建設産業局 建設業課  
入札制度企画指導室

# 復興CM方式における評価の視点

## 復興事業実施上の目標（発注者ニーズ）

### スケジュール短縮・遅延リスクの回避

早期復興が求められているため、民間のマネジメント・技術力や調達能力等の活用により「**大幅な工期短縮・遅延リスクの回避**」「**コスト縮減**」「**人材・資機材の確保**」を図る必要

### 発注者体制の補完

発注者が経験のしたことがない膨大かつ大規模な工事を短期間で実施しなければならないため、「**発注者のマンパワー・ノウハウの補完**」を図る必要

### 事業の不確実性への対応

地元調整による整備計画の変更や物価高騰等、事業の見通しを立てることが困難なため、「**仕様・数量の不確実性への対応**」とともに、「**透明性・公正対価の確保**」を図る必要

### 地域経済への貢献等

地域経済の復興が求められているため、適切な専門業者選定や地元企業の優先活用により、「**安全・品質の確保**」「**地域経済への貢献**」を図る必要

## 復興CM方式の活用ツール

### A. マネジメントの活用

- 事業の早期着手や事業期間の短縮のため、施工手順や施工ヤード設定の工夫、超大型重機の導入による施工効率の最大化、資材・労務・機械の早期調達等、受注者の施工技術を反映

### B. 設計施工の一体実施

- 設計完了後の速やかな工事着手の実現、施工を踏まえた最適設計や設計に必要な現地把握を適時に実施するため、調査・測量・設計・施工を一括発注

### C. コスト&フィー契約

- 物価高騰、超大型機械の調達等、市場動向・変動に対して受注者が円滑に施工に着手できるよう、実際に要した費用（コスト）にフィーを加えて支払い

### D. オープンブック方式

- 支払の公正さや透明性を確保するため、受注者が全てのコストに関する情報を開示し、支払過程や対価を明確化

### E. リスク管理費の導入

- 基本設計が不十分な段階での事業実施であり、多くのリスクが想定されたため、受発注者間でリスク確認・協議・共有するとともに、発現リスクに対応するための経費を導入

### F. 専門業者選定基準の整備

- 建設会社を始めとする地元企業が適正な価格で受注できるよう、専門業者選定に関する基本的な考え方、活用方針、評価項目、選定方法を策定

## 次回に向けて(効果・課題の検証)

### 【ポイントⅢ】 工夫・改善策を講じた結果、事業の目標を達成し、期待された効果が得られたか

- 復興事業実施上の目標(発注者のニーズ)を視点に、事業の目標や発注者のニーズを達成できたか(期待された効果が得られたか)を検証
- 特に、早期整備に最大のプライオリティが置かれていたため、「スケジュール短縮」や「遅延リスクの回避」の評価項目を中心としつつ、その他の発注者ニーズも幅広く検証

復興CM方式導入4地区の効果事例を基に、評価(案)を提示

### 【ポイントⅣ】 工夫・改善策を講じた結果、今後の他事業への活用可能性のある要素や適用する際の留意点は何か(法令等の整合を含む)

- 【検証ポイントⅢ】の評価結果を基に、復興CM方式の活用ツールについて、これまでの改善策等を踏まえた効果・課題の検証を実施
- 特に、復興CM方式における特徴的な活用ツール(「マネジメントの活用」・「コストプラスフィー契約」・「オープンブック方式」)については、従来の一括請負方式との相違点や法令等の整合も念頭に置きながら、今後の活用に向けた留意点も合わせて整理

今後の活用に向けた新たな枠組み・課題の整理(案)を提示